

目次 Contents

魅力再発見
特集「よこて生まれ」 2

行政情報便
●除雪対策本部開所
●市長ですこんにちは
ほか 10

地域の話題
●NEWS東西南北 14

情報information
●お知らせ
●いどばたプラザ 16

読者の声 20

思えば遠くへ来たもんだ
●高橋愛子さん(十文字) 22

巧(たくみ)
●遠藤千代司さん(雄物川) 23

横手遺産
●筏の大杉(山内) 24

【特集】
魅力再発見

生活に
溶け込む

よこて生まれ


市報 よこて

優れた技術で高品質な製品を生み出す
(写真はアスター工業(株)・平鹿)

No.5

2005年12月15日号

12-15

【特集】魅力再発見

生活に
溶け込む

よこて生まれ

横手市内には製造業を中心に幅広い分野の企業が存在し、たくさんさんの製品が作られています。しかし意外に知られていないのが、それぞれの企業が「何を作っているのか」ということ。「名前を知っているけれど」「いつも近くを通るけれど」「そんな声が聞かれます。今号では、私たちの生活に溶け込んでいる魅力ある「よこて生まれ」の一部を紹介します。



あらゆる印刷機械の
開発・設計・製造を手掛ける

（株）宮腰デジタルシステムズ 【大雄】

☒宮腰デジタルシステムズ（以下、宮腰）は昭和49年7月、宮腰情報機械☒として大雄村で創業。今年4月、社名を変更し、世界を相手に事業を展開する印刷機器製造のトップメーカー。

製造の主力機種は、オンデマンド印刷機。オンデマンド印刷機とは、従来のオフセット印刷機（製版を必要とする印刷機）と違い、一つひとつ違う種類のデータを大量に印刷できる機械として、幅広い分野、業種で活用されている。その印刷機で印刷され、私たちの家庭に届いているのが、携帯電話などの請求明細書。国内最大手の携帯電話会社では、宮腰製造のオンデマンド印刷機を専門に導入していることから、意外なところで宮腰と私たちの生活との接点が生まれていた。

「請求明細書のほか、学習塾の教材印刷にも当社の印刷機が使われています。生活との関わりは、たくさんあるのでは」と語る宇野さん。宮腰が手掛ける印刷機は、すべてが受注生産。発注者の意向に沿う印刷機を開発から製造まで、すべて自社で行っている。

「液体と空気以外、印刷できないものはない。それだけの技術が当社にはあります」と力強く宇野さんが語るとおり、工場内では壁紙や石材など、多種多様な材質への印刷を研究する姿を見ることができた。

「市場に出ていないもの、ここできできないものを造る」宮腰の視線は常に時代を先をえとらえている。

【左】主力機種のオンデマンド印刷機。開発から設計、製造まで、すべてが工場内で行われている。

【右】各家庭に届けられるダイレクトメールや請求明細書等の印刷物。宮腰社製の印刷機から私たちの家庭に届けられているものは、まだまだたくさんありそうだ。（写真はイメージです）



株式会社宮腰デジタルシステムズ
取締役工場長

の 宇野 建彦さん

- 会社名 株式会社宮腰デジタルシステムズ
- 所在地 横手市大雄字高津野111
- 資本金 9,300万円
- 従業員数 183人





【UD0ディスクシステム・写真上】
UD0とは「Ultra Density Optical」の略。
青色レーザーを用いた次世代光ディスク規格。
5.25型MOディスクと類似のカートリッジを使用した記録容量30Gバイトの両面のディスク。5.25型MOディスクのなかで、最も記録容量が大きい9.1Gバイトに比べ、3倍以上の容量を持ち、2008年には120Gバイトまでの容量拡大および高速転送への対応が予定されている。また、耐久性にも優れ、50年以上の長期保管が可能とされている。

世界で唯一の『UD0ディスクシステム』
生産工場

アスター工業(株)秋田工場 【平鹿】

アスター工業の創始者は、平鹿地域出身の藤原玄六氏（現・代表取締役）。昭和47年4月にアスター工業を創設。地元雇用場を提供したいとの思いから、その後、平鹿の地に秋田工場を開設した。

秋田工場で製造されているのは、主にカーコンポ（車載ステレオ）や業務用プリンターなどのAV・OA機器。カーコンポの構造中、CDやDVDなどのユニットの製造を手がけている。取引企業も多く、私たちの車にもアスター工業製造のカーコンポが搭載されている可能性は高い。

生活に密着したこれらの製品以外に特筆したいのが『UD0ディスク』のユニット製造部門。UD0ディスクとは青色レーザーを用いた次世代光ディスク（記憶装置）規格で、米国を中心に、パソコンのデータやデジ

タル映像等の保存に活用されているもの。そのユニット（写真左上）の生産を世界で唯一、秋田工場が手がけている。国内大手メーカーが生産に挑戦するも断念した分野で、アスター工業のみが成功を収めた。

「県南地区はこれまで有能な人材を多く輩出しており、勤勉で従業員の質も高い。市内や県南にある企業と連携し、開発から部品の調達、製造までのすべてをこの地で行える製品を誕生させ、横手市をハイテク産業の拠点にすることが当社の夢です」と語る本郷工場長の言葉に、我々の期待も膨らむばかりだ。



【写真上】
生産量の3割を占めるカーコンポ部門。CDやDVDなどのユニットを製造している。

【写真左】
全国各地の中学校に導入が進められているバーコード機能を使った英語のリスニング（聴き取り）機。今夏の台風被害により授業が出来なくなった九州地区の中学校で大いに活用された。様々な場面でアスター工業の製造品が活躍している。



アスター工業株式会社秋田工場
工場長

ほんごう たけのぶ
本郷 武延さん

■会社名 アスター工業 秋田工場
■所在地 横手市平鹿町浅舞字道川北18-3
■資本金 1,000万円
■従業員数 110人

世界のトップブランド『EDWIN』
専門工場としての地位を確立

秋田サンダイヤ(株) 【平鹿】



秋田サンダイヤでは女性物を中心に、月に約45,000本のジーンズが生産されている。

年齢や男女を問わず親しまれているジーンズ。秋田サンダイヤは、世界のトップブランドでもある『EDWIN（エドウィン）』の専門工場として、平鹿地域から世界へ高品質な製品を提供している。

創業は昭和49年。これまではエドウィン製品以外のブランドも手掛けていたが、現在ではエドウィン製品のみを生産している。女性物を中心に、月にして約4万5,000本のジーンズがこの工場生産され、消費者の元に届けられる。

「一本いっぽん素材が違ったり、デザインに特徴があったりと、メーカーの注文も多様化してきている。それらにしっかりと対応できる体制と技術が必要であり、従業員が一体となり品質向上に取り組んでいる」と語る今野谷さん。

アパレル業界は、特に海外との価格競争が激しく、生き残りが厳しい世界。秋田サンダイヤは消費者の動向を的確に把握し、メーカーの要望に品質で応えながら難局を乗り越えてきた。

そんな苦労を感じさせない笑顔で取材に応じてくれた今野谷さんは、

「ジーンズは丈夫で長持ちすることから、とても愛着の持てる商品。若者を中心に、もっとエドウィンのジーンズを着てほしい」と自社製品への自信をのぞかせている。



着込むほどに風合いを増すジーンズ。丈夫で長持ちする点でも、人気の衣類。



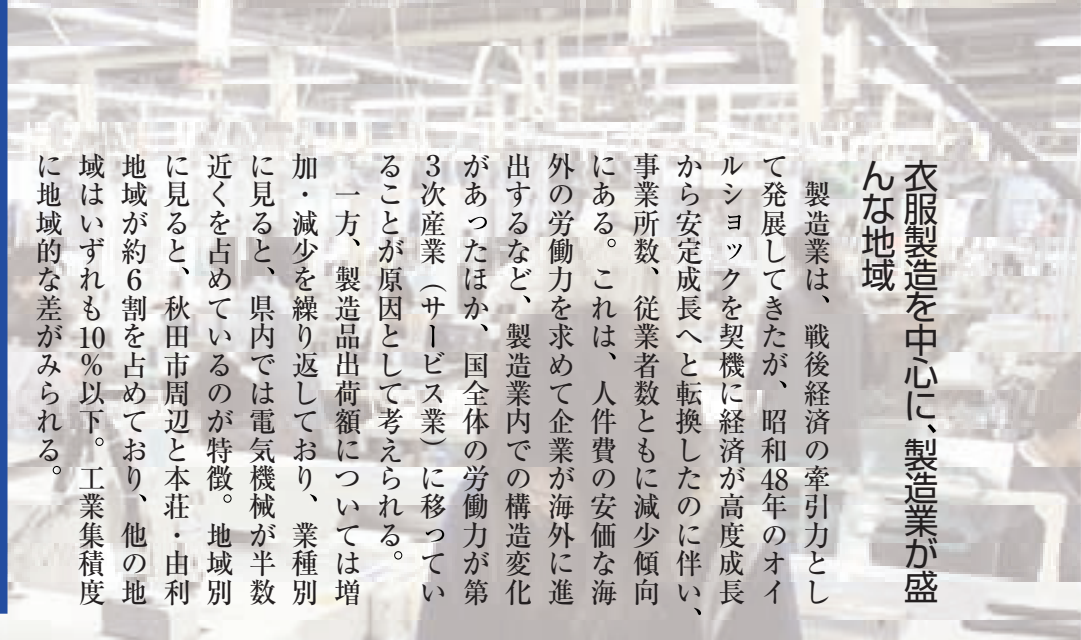
秋田サンダイヤ株式会社
取締役工場長

いまの や みつる
今野谷 満さん

■会社名 秋田サンダイヤ株式会社
■所在地 横手市平鹿町下吉田字街道上23-2
■資本金 3,000万円
■従業員数 93人

ちよつとひと息

統計からみる
横手の製造業



衣服製造を中心に、製造業が盛んな地域

製造業は、戦後経済の牽引力として発展してきたが、昭和48年のオイルショックを契機に経済が高度成長から安定成長へと転換したのに伴い、事業所数、従業者数ともに減少傾向にある。これは、人件費の安価な海外の労働力を求めて企業が海外に進出するなど、製造業内での構造変化があったほか、国全体の労働力が第3次産業（サービス業）に移っていることが原因として考えられる。

一方、製造品出荷額については増加・減少を繰り返しており、業種別に見ると、県内では電気機械が半数近くを占めているのが特徴。地域別に見ると、秋田市周辺と本荘・由利地域が約6割を占めており、他の地域はいずれも10%以下。工業集積度に地域的な差がみられる。

時代を先取りした製品の数々
最新の技術で『満足』を提供する

(ジューキ)
JUKI電子工業(株)
【増田】



【病院の自動診察受付機】主に首都圏や関西などで導入されているPHSを利用した自動診察受付機。開発から製造まで、すべてをJUKI電子工業が行う。

JUKIと聞いて、すぐに思い浮かぶのは「工業用ミシンの世界的メーカー」ではないだろうか。ところが白澤部長に話を聞くと、「確かに関連する部品を製造したことはありますが、ここでミシンそのものを製造したことは一度もありませんよ(笑)」と意外な答えが返ってきた。

昭和48年9月、ジューキ電子工業(株)として増田町で操業を開始。今年10月に社名を「JUKI電子工業」(以下・ジューキ電子)に変更した。ジューキ電子は製品の開発から製造までを一貫して行う受託企業。パソコンや携帯電話、ゲーム機などの基盤の製造はもとより、病院の自動診察受付機や航空券・駐車券の自動発券機など、ジューキ電子が開発・製造した製品は、様々な分野で活躍し



JUKI電子工業株式会社
取締役 総務部長

しらさわ すずむ
白澤 進さん

■会社名 JUKI電子工業株式会社
■所在地 横手市増田町増田字石神西70
■資本金 3億円
■従業員数 501人

ている。その中で、私たちの生活に最も身近な物として上げられるのが、ATM(現金自動受払機)のユニット。ジューキ電子が開発・製造したATM内のユニット(通帳記帳部や紙幣払出部など)が(株)北都銀行のATM内に組み込まれている。市内に数多く存在し、気軽に利用しているATMだが、その主要部分をジューキ電子が製造しているのだった。「一つひとつ付加価値の高い製品を作ることが厳しい時代を生き残る手段。これからこの秋田でものづくりを続けていきたい」と語る白澤さん。

ジューキ電子の探求心は、私たちの生活をもっと快適に演出してくれそうだ。



【ATMのユニット】硬貨処理部や通帳記帳部、紙幣払出部などのユニット。ジューキ電子内で様々な研究や試験が繰り返され、製品化される。



横手市の製造品出荷額(総額)をみると、特に多いのが衣服。大森地域の出荷額が多く、次いで増田地域、横手地域と出荷額の多い地域が続き、県全体の出荷額の約30%が横手市で生産されていることがわかる(別表参照)。従業員数の占める割合は約19%だが、出荷額が大きいのが特徴である。

また、地域別に特色のある製造品としては、輸送機械や一般機械、印刷、精密機械などがあげられる。輸送機械においては、横手地域で県内の41%以上、横手市としても50%近い出荷額となっている。一般機械の出荷額は、増田地域が県全体の14%以上を生産、横手市としても21%以上の額を占めている。その他においても、印刷に関しては横手地域、精密機械に関しては十文字地域の出荷額が多いのが特徴である。

雇用創出、経済の高度化を生む誘致企業

誘致企業は、秋田県内の工業集積を高めることや雇用の増大を図ることを目的に、昭和36年頃から誘致が始まり、昭和42年〜48年頃に大きく伸長した。昭和50年〜55年頃には、オイルショックによる低迷期を迎えたものの、昭和56年以降再び増加傾向を見せた。いわゆる「バブル経済」

崩壊以降、事業所数では平成5年を、従業者数では平成4年を境に減少が続いている。

平成15年の統計で見みると、事業所数で352、従業者数で3万5190人、工業出荷額は8、400億6、146万円と、それぞれ全県の11・0%、37・9%、49・2%を占めている。出荷額の構成比をみると、昭和45年では①食料品(飲料・飼料等を含む)32・1%、②木材・木製品17・9%、③電気機械17・4%、④衣服8・3%、⑤繊維4・5%であったが、昭和56年以降は電気機械、輸送機械などの機械工業の出荷額が増加した。

このように、誘致企業が地方の産業・経済構造に大きな影響を与えるに至ったのは、製造業の全国的な伸びを受け、土地、労働力が低廉な地方に中央資本が集まり、積極的に進出を図ったことがあげられる。

誘致企業の進出は、雇用の場の創出や産業・経済の高度化を生み、さらには、自治体の財政面にも大きく貢献した。現在は、大量生産の工程が海外へと流れている中で、積極的な企業誘致は図られていないが、依然として県製造業の中核的役割を果たしており、私たちの生活に不可欠な存在となっている。

【別表】衣服類の統計(平成15年工業統計から)

	事業所数	従業者数	製造品出荷額
横手	21	478人	22億8,368万円
増田	7	355人	24億3,434万円
平鹿	10	273人	13億9,172万円
雄物川	10	156人	4億2,626万円
大森	9	404人	98億0,112万円
十文字	14	340人	10億3,939万円
山内	5	76人	2億1,294万円
大雄	5	142人	5億8,847万円
計	81	2,224人	181億7,792万円
県全体	473	11,633人	598億4,754万円
割合	17.1%	19.1%	30.4%



確かな技術と信頼が 質の高い製品を生み出す

「品質」、「技術」、「信頼」。
どの企業を訪れても、必ず耳にし、そこに働く人々が常に目標にしている言葉でした。

景気の低迷や海外生産品との価格競争など、製造業を取り巻く環境は今なお厳しいのが現状です。しかしながら、経営者と従業員が一体となり、優れた技術と高い品質を提供し続けてきた結果、現在では海外へ流出していた生産工程が見直されてきています。日々変化する多様な需要に対応しうる日本の高い技術が求められてきているのです。

今回紹介した企業以外にも、横手市には魅力ある「よこて生まれ」を生み出す企業がたくさんあります。

今後も市報を通して、企業と働く人の元気な姿を伝えていきたいと思います。



いずみ や しん いち
河野光学レンズ株式会社 取締役工場長 泉谷新一さん

皆さんは「レンズ」と聞いて、どんな製品を想像するだろうか。一般的にカメラレンズを想像されるだろうが、河野光学では実に多種多様なレンズを製造している。

カメラ・医療用など多種多様なレンズを製造

「皆さんがお使いのメガネレンズやカメラレンズはもちろん、直径1・2ミリの医療用レンズ（内視鏡などに使用）から直径30ミリの天体観測用レンズまで、数万種類のレンズを製造しています」と語る泉谷さん。そのサイズや種類の多さに驚かされる。

河野光学では、レンズの設計から素材の調達、プレス（型取り）、研磨（磨き）、そして完成品まで、すべての工程を自社で行っている。工場内では24時間品質管理が行われており、月に約15万から20万個のレンズが出荷されている。

「短納期、高品質、コストとの戦い、そして新たな需要に対する設備投資。どの発注も高いハードルをクリアしての仕事ですが、当社の技術でそれに応えています」と話す泉谷さん。生活の中に溶け込んでいる「よこて生まれ」をたくさん見ることができた。

国内カメラメーカーのレンズを数多く手掛けている。皆さんのレンズも河野光学製造かもしれない。



「横手」日貿産業株式会社



アテネオリンピックで使用された公式ブレザー。右がオリンピック用、左がパラリンピック用。すべて日貿産業が縫い上げた。

アテネ五輪の公式ブレザーを縫製

世界を感動と興奮に包んだ昨年のアテネオリンピック。日本選手団の公式ブレザーの縫製を一手に引き受けた会社が日貿産業。開会式や閉会式などで日本選手団が着用していたブレザーのすべてがこの横手で作られていたとは驚きだ。

「難儀な仕事でしたが、従業員が心を込めて縫い上げました。これまで築き上げてきた技術と信頼が実を結んだ仕事でした」と、小松さんは当時を懐かしく語る。現在も（株）レナウンなどの国内トップメーカーと取引をし、一流ライセンスブランドの生産、商品提供を手掛けている。

「品質へのこだわりを追究したい」と話す小松さん。また私たちが驚かせる大きな仕事をやってくれそうだった。



こまつ かず お
日貿産業株式会社 工場長代理 小松和雄さん



現在は「セオリー」などのブランド品を主に製造している。

民生・児童委員に厚生労働大臣表彰

横手市から12人が受賞

民生・児童委員として、長年にわたり地域福祉向上のために活躍された功績が認められ、横手市から12人の方々が厚生労働大臣表彰を受賞されました。
受賞おめでとうございます。



新田 義雲氏
(71歳・横手)



小宅喜代治氏
(66歳・横手)



高橋 滯子氏
(69歳・横手)



佐々木静子氏
(74歳・増田)



木曾 章司氏
(72歳・横手)



伊藤 良三氏
(78歳・横手)



菊地慶三郎氏
(78歳・平鹿)



渡部 光司氏
(77歳・平鹿)



柴田 竹子氏
(76歳・平鹿)



牧野 新吾氏
(76歳・山内)



佐々木春司氏
(70歳・大森)



山下勢津子氏
(71歳・大森)



市民の生活を守る除雪車も整備され、出番を待ちます



8つの地域それぞれで安全祈願が行われた(写真は横手地域)

たは午前2時までに5センチ以上の積雪があり、さらに雪が積もることが想定される場合とし、出勤時間前の午前7時30分までには、全路線の除雪を終了することを取り決めていきます。

新市の今冬の除雪体制は、原則として旧8市町村でこれまで行われてきた体制を引き継いだもの。出動基準は、午前2時までに10センチの積雪がある場合、ま

平成17年度除雪対策本部開所式が12月1日、横手市道路管理センター(市役所本庁向い)において行われ、関係者の皆さん約80人が出席しました。
式では、五十嵐市長が「いよいよ12月に入り本格的な冬を迎えた。合併に際し、それぞれの地域が最も心配していたのは新市の除雪体制。市議会との協議の中でも、除雪についての質問が非常に多かった。市では『それぞれの地域において、これまで行われてきた除雪体制を絶対に後退させない。少しでも良くすること』を方針としており、市議会にもご理解をいただいた住民の皆さんに喜んでいただけた除雪を事故なく行うために全力を尽くすことが我々の使命。今年の冬も関係者の皆さんにご難儀をおかけするが、万全の体制で一丸となって臨みたい」とあいさつし、除雪体制の徹底と無事故を誓いました。



沖田 武氏
(68歳・横手)

沖田さんは、自動車塗装において従来の塗装工程を見直し、独自の塗装技術を確立。その卓抜した技能が評価されたものです。沖田さんは、「これからも技術の向上を目指し、お客様の信用を大事にしていきたい」と語ってくれました。

横手市赤坂で板金業を営む沖田武さんが、「現代の名工」に選ばれ、厚生労働大臣から表彰されました。

沖田武さん(横手)が「現代の名工」に



兼子 士朗氏
(67歳・横手)

賞されました。兼子さんは、大曲地区社会保険委員会会長や県社会保険委員会連合会副会長などを務められています。兼子さんは、「これからも事務所と市民の皆さんとの橋渡し役として地域に貢献していきたい」と語ってくれました。

社会保険委員として、長年社会保険事業の普及、向上に務められた功績が認められ、兼子士朗さんが厚生労働大臣表彰を受

兼子士朗さん(横手)が厚生労働大臣表彰



伊藤 耕作氏
(79歳・平鹿)



神谷勇次郎氏
(80歳・平鹿)



稲葉 長一氏
(67歳・山内)



藤田 新一氏
(71歳・平鹿)



鈴木 實氏
(74歳・平鹿)



藤王 米藏氏
(74歳・平鹿)

統計調査員として、長年にわたり各種統計調査に積極的に従事された功績が認められ、横手市から6人の方々が農林水産大臣表彰を受賞されました。
受賞おめでとうございます。

統計調査員6人が農林水産大臣表彰

街からあなたへ
行政情報便
05.12.15

全地域の除雪体制整う

12月1日、除雪対策本部が開所



考えてみませんか 「雪となかよく暮らす生活」

「横手市雪となかよく暮らす条例」
市民委員を募集します

今年も雪の季節がやってきました。みなさんは『雪』についてどんな考えをお持ちですか？

旧横手市にあった「雪となかよく暮らす条例」が、合併に伴い新市に引き継がれ、市民一人ひとりが雪との共生・共存に取り組んでいくことになりました。雪をプラスに考え、暮らしに潤いを与えてくれる自然の恵みとしての雪に向かい合い、これを受け入れ、市民、事業所及び行政が力を併せて、快適で魅力ある雪国をつくっていきましょうという、市民性を育てる憲章的な条例です。

新市のまちづくりを考えていく上での重要な「横手市の自然」と関連するこの条例の概要について紹介します。

横手市雪となかよく暮らす条例【概要】

【目的】雪を積極的に受け入れ、市と市民、事業所が一体となって快適なまちづくりを進め、魅力のある雪国を創ることを目的とします。

【市民の役割】市民は、互いに助け合い、冬を元気に楽しく暮らすために、創意と意欲を持って雪寄せなどに対してマナーを守り、お互いに協力し助け合います。また、路上駐車や道路への雪捨てなどの迷惑行為に気をつけ、良好な道路環境を保つように努めます。さらには、伝統行事やス

ポーツ及びレクリエーションに参加し、冬を楽しみます。

【事業所の役割】事業所は、地域の模範として雪国のマナーや地域のルールを守った除排雪や除雪ボランティア活動への協力、伝統行事やお祭りの応援等をします。

【市の役割】市は、雪のない地域と同じまちづくりをするのではなく、雪と共生・共存するまちづくりを進めるため、安全で良好な冬の道路交通の確保や除雪を考えたまちづくりに努めます。また、除雪のできない高齢者などに対するボランティア活動の支援や雪国の伝統行事や冬のレクリエーションの振興等を図ります。

【市民委員会】この条例の目的実現に向けて、雪に強いまちづくりや雪に親しむ暮らしづくりの推進に関すること等について意見を求めるために、市民委員会を開催します。

★市では「横手市雪となかよく暮らす条例」に基づく市民委員を公募します。

- 募集人数 各地域から3人以内(計24人以内)
- 開催内容 年2～3回程度(夕方からの開催を予定)
- 申込期限 12月26日(月)まで
- 申込方法 住所、氏名、電話番号をお知らせください。

■申込み・問合せ先
横手市総務企画部 企画課政策調整担当
(本庁南庁舎内) ☎35-2164 ☎33-6061
E-mail:kikaku@city.yokote.lg.jp

こんにちは

横手市長 五十嵐 忠悦

市長です

●自治体職員の心構えについて

厳しい財政状況の今日、自治体がこの難しい時代を切り開いていくためには、何と言っても「人材」のあり様が重要です。私は、新・横手市職員についても次のような心構えで市民サービスに努めてもらいたいと思っています。

まず、これからの市職員は、ラグビー型ではなくサッカー型であってほしいということ。私は、学生時代にラグビー部に所属していた経験があり、トライが決まったときの感動は、今でも忘れられません。しかし、ラグビーはポジションごとに役割分担があり、サインプレーが多いため、意外性に欠けています。得点を挙げる選手も大方決まっています。それに対してサッカーは、個々の選手の判断で、誰もが攻撃に参加し、ゴールすることができます。得点を挙げるために一人ひとりが実に多彩な動きをしています。

これらの事は、自治体職員のあり方を例示しているのではないのでしょうか。ラグビーの場合、約束事の中に選手の個性が埋没しがちであり、逆にサッカーの「奔放さ」は、人気を博している理由の一つであると考えられます。

つまり、職員は決められたことだけを手堅くやるのではなく、自分で状況判断し、どうすれば必要な施策を効果的に実践できるかを考えて行動しなければいけません。また、そのような心構えを個々の職員が持つための環境でなければ、組織として良い仕事はできません。一人ひとりが、大きな目標の中で自由な意思で判断し、市民の皆さんの理解を得られる仕組みづくりが急務であると感じます。

職員が共通認識を持ち、市民の皆さんへの公約を一日も早く実践できる体制を確立できるよう努めていく考えです。





大船渡

「つばきまつり」
世界13カ国約260種類のツバキが植栽されている「世界の椿館・基石」。見ごろを迎える1月14日から3月26日まで、「つばきまつり」を開催。世界のツバキに囲まれ、素敵な時間を過ごしてみませんか。
◆問合せ：世界の椿館・基石 ☎0192-29-4187

あきた いわて

北東北地域連携軸構想

(大船渡市、釜石市、遠野市、江刺市、花巻市、北上市、水沢市、大仙市、湯沢市、由利本荘市、横手市)

北東北を横断する、秋田・岩手両県の合わせて11の都市が、互いに協力し合い、ともに発展していこうとの目標のもと、平成7年に「北東北地域連携軸構想推進協議会」を設立しました。これまで、災害時の相互援助協定の締結や構成市間での職員交流派遣などを行い、お互いに支えあう仕組みづくりを進めてきましたが、その構想は新横手市にも引き継がれています。

地域を越えた人と人との深い絆を大切にし、「あい・みちのく」をキャッチフレーズとして新しい時代の創造に取り組んでいる各市。そんな各市の一度は足を運んでみたいイベントや観光地、特産品などをご紹介します。

みちのく横断の旅に出かけて新しい絆を築いてみませんか。



釜石

「観光船 はまゆり」
陸中の海上を快走する、陸中海岸初の双胴型高速船。ウミネコたちの歓迎を受けながら、爽快なクルージングを楽しんでみませんか。
発着所：釜石市港町須賀岸壁
◆問合せ：観光船案内所 ☎0193-22-2275





大仙

「刈和野大綱引き」
500年以上の伝統を持ち、市神様の神事として毎年2月10日の夜に開催される国内最大級の大綱引き。上町が勝つと米の値段が上がり、下町が勝つと豊作になるといわれている。
◆問合せ：西仙北中央公民館 ☎0187-75-1115



遠野

「遠野ふゆ物語」
どぶろくを味わう「どべっこ祭り」、市民手づくりの舞台「遠野物語ファンタジー」、商家に代々伝わるお雛様を愛でる「町家のひなまつり」など、冬の遠野には味わい深い魅力が隠れている。
◆問合せ：遠野市観光協会 ☎0198-62-1333



江刺

「えさし藤原の郷」
NHK大河ドラマ「義経」をはじめ、数々のドラマのメインロケ地として脚光を浴びている。園内では平安時代の建築様式を再現した建物群と四季折々の催し物が用意されている。
◆問合せ：えさし藤原の郷 ☎0197-35-7791



花巻

「わんこそば全日本大会」
毎年2月11日、花巻市文化会館で開催。制限時間内に何杯食べられるかを競い、出場者はもちろん、観客も手に汗握る熱戦が繰り広げられる。大会の前には市内でわんこそば祭りなども開催。
◆問合せ：花巻市観光課 ☎0198-24-2111



由利本荘

「新山神社裸まいり」
修行者の荒行を起源とし、豊作と家内安全を祈願する祭り。当日は「ジョヤサ、ジョヤサ(徐夜叉)」の掛け声とともに裸の若衆が新山神社を目指し、厳寒の季節に熱気があふれる。
◆問合せ：由利本荘市役所 ☎0184-24-3321



湯沢

「稲庭うどん」
なめらかな舌ざわり、淡泊な味わいの稲庭うどんは、日本三銘うどんの一つとして知られる逸品。湯沢市稲庭地区はうどんづくりの里として知られ、その味は全国的にも高い評価を受けている。
◆問合せ：湯沢市観光振興課 ☎0183-42-5802



北上

「夏油高原いで湯ライン」
夏油温泉までのアクセス道路の愛称が「夏油高原いで湯ライン」に。沿道には10軒の温泉施設が並び、夏油高原スキー場には新たに「夏油高原温泉」がオープン(夏油温泉は冬季閉鎖)。
◆問合せ：北上観光協会 ☎0197-65-0300



水沢

「黒石寺蘇民祭(くせきじそみんさい)」
毎年、旧正月の7日夜から翌朝にかけて、厄払いや五穀豊穡を祈願して開催される「裸の男と炎のまつり」。蘇民袋争奪戦では、厳冬をものともせず、男たちのエネルギーが激しくぶつかり合う。
◆問合せ：黒石寺 ☎0197-26-4168

横手産リンゴを世界へ

■タイ・バンコクでリンゴを販売(増田)

横手産りんごを世界へ。増田地域のりんご農家で組織する増田出荷会（藤原隆行代表）のメンバーが、12月中旬からタイ・バンコクで販売するリンゴの出荷作業を11月中に行いました。

この取り組みは、新たな販路拡大を目的として、若手後継者らで組織する出荷会が昨年から本格的に活動を開始したもの。去年は、中国にリンゴを輸出しましたが、すでに青森産の「世界一」や「陸奥」などの品種が贈答用として人気を博していることや、農家が直接市場に出向かなかったことによる宣伝不足等で思うような手応えをつかめずにいました。今年は、日本産リンゴが出回っていないタイに照準を合わせ、再び販路拡大に挑戦することを決めました。

タイで販売するのは、「ふじ」500^{キロ}と「王林」400^{キロ}。12月9日からタイの百貨店で生産農家や市担当者らが販売・宣伝を行います。代表の藤原さんは「販路拡大の道を確認し、輸出量を増やしたい」と語っています。



王林の荷造りをする会員ら



生徒の皆さんが言葉の意味をかみしめながら合唱

言葉のシャワーを体験

■横手南中学校PTA研修事業(横手)

普段、何気なく口ずさんでいる言葉や歌の歌詞。これらが持つ意味について、生徒と保護者が共に考える研修会が12月2日、横手南中学校で開催されました。「感じてください言葉を」をテーマに講師を務めたのは「秋田読み語りの会」の皆さん。絵本の読み語りや詩の朗読が披露されると、会場全体が「言葉の持つ力」に引き込まれた様子に。最後は、同会の大友由美子さんが講演し、元民放アナウンサーとして言葉そのものを職業とした立場から、その大切さを訴えました。



オープニングでは、子ども達が八沢木獅子舞を披露

芸術文化の秋を満喫

■吉田地区生活文化展(平鹿)

地区の皆さんが自分の趣味などを活かした作品等を展示・発表する第43回吉田地区生活文化展が11月23日、吉田公民館で開催されました。生活文化展は、生活の向上と文化の継承を目的に毎年開催。皆さんが持ち寄った手芸や自慢料理、浅舞紋りなど300点を超える展示物が並べられたほか、会場では、横手市教育長の大和谷弘氏による文化講演会、大仙市のサクソ奏者の飯塚雅幸氏による演奏会も行われ、芸術の秋・文化の秋を満喫しました。



展示物に見入る来場者

■成長期の悩みを語る

(大雄)



成長期の心と体の悩みについて話し合う集いが、11月26日、大雄農業者トレーニングセンターで行われました。この集いは県のモデル事業の一環として開かれたもので、司会に石垣政和さんを迎え、市内の代表者たちが活発な意見を交換。参加者は身近な問題として、熱心に話に聞き入っていました。

■完成！わが家のケーキ

(山内)



12月3日、山内公民館においてクリスマスケーキ作り教室が開かれました。「今年こそ手作りケーキでおもてなし」と参加した皆さんは、チョコレートや生クリーム、フルーツなどを使い、思い思いにデコレーション。家族の笑顔あふれるクリスマスを想像しながら、オリジナルのケーキを仕上げていきました。

■歌や遊戯で誕生祝う

(十文字)



11月24日、十文字のふれあい館で子育て支援センターさくらんぼ主催による11月の誕生会が開かれました。この催しは、まだ保育所や幼稚園に入っていない子どもたちを対象とするもの。参加した親子は力いっぱいローソクの火を吹き消し、歌や遊戯をしたりと楽しいひとときを過ごしました。

■地域の安全守ります

(大森)



11月24日、大森の前田公民館において、前田地域見守り隊発足式が行われました。見守り隊は「自分の地域は地域全体で守る」を合言葉に、前田老人クラブ（平元鐵雄会長）の皆さん約50名が結成したもので、地域の安全を守るために力を合わせていくことを誓い合いました。

■バレーで爽やかな汗

(雄物川)



12月4日、雄物川体育館で第34回雄物川地域家庭バレーボール大会が行われ、6チーム54人が参加しプレーを楽しみました。試合はゴムボールを使う8人制の家庭バレーボール競技規則で行われ、声を掛け合い夢中でボールを追う選手は家族や友人から温かい声援を受けながら爽やかな汗を流していました。

■愛されて150万人

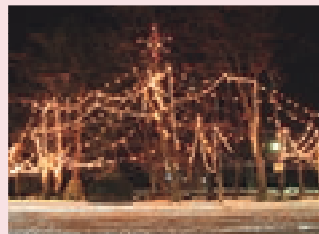
(平鹿)



11月17日、温泉保養施設ときめき交流センター『ゆっぶる』の入館者が平成7年8月のオープン以来、150万人を突破しました。150万人目となった、増田町の平良木友吉さんには血圧計などの記念品が贈られ、「よく利用している。150万人目とは驚いた」と話していました。

■電飾をプレゼント

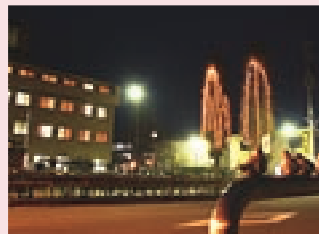
(増田)



11月25日、ますだ保育園前に高さ10mほどのクリスマスツリーが完成し、園児たちを喜ばせています。これは、増田地域の建設技能組合（黒田剛会長）と増田地域ライオンズクラブのご厚意により実現したもので、点灯は12月25日まで。お近くにお出の際には、ぜひご覧ください。

■病院の夜を光で演出

(横手)



横手病院前に灯されたイルミネーションが患者さんや通行人の目を引きつけています。これは、患者さんの一刻も早い回復を願う職員が「病院の冬に温かさを」とカンパを募り実現したもので、2本あるメタセコイアの木に灯された電飾がやわらかく演出しています。なお、点灯は12月いっぱい続きます。

情報

お知らせのページ

お知らせ



工業統計調査にご協力ください

工業統計調査は、国内の製造業の実態を明らかにするため、全国の製造業の事業所を対象に実施されるもので、毎年12月31日を基準に行われます。調査の結果にもとづいて作成される工業統計表は、自治体の都市計画や景気対策、企業の製品開発や生産計画など、さまざまな分野で利用されますので、ご協力をお願いします。

問合せ 市企画課（本庁南庁舎内） ☎ 3512164

催し



第18回 楓の木光のファンタジー

県指定天然記念物で、地元では「楓の木」と呼ばれ親しまれているケヤキの木。期間中、この木に灯された約5、000個の灯かりが光のシャワーとなって降り注ぎます。初日には点灯式のほか、さまざまなアトラクションを用意したイベントを予定しています。

期間 12月17日～1月9日
時間 午後5時～10時
場所 浅舞感恩講保育園前（プレイベントは17日）

午後2時、点灯式は午後5時から平鹿生涯学習センター）
問合せ 平鹿地域局産業振興課 ☎ 241118

「絵画が語る時代と人」展

作家が生きた時代の社会情勢を色濃く反映する美術品。この企画展では、作品（日本画）にまつわるエピソードや背景を社会の動きに重ねてご紹介します。

期間 12月17日（土）～2月5日（日）

はしか、風しんの予防接種が変わります

現在の制度では、麻しん（はしか）ワクチンおよび風しんワクチンをそれぞれ1回ずつ接種していますが、対策をより一層強化するため、平成18年4月から、MRワクチン（麻しん風しん混合ワクチン）を2回接種する制度に変わります。

改正前		改正後	
種類	回数	種類	回数
麻しん	1回	麻しん	2回
風しん	1回	混合	2回
対象年齢（月齢）		対象年齢（月齢）	
生後12か月～90か月		生後12か月～24か月	
		☑ 5歳～7歳未満（小学校入学前の1年）	

※麻しんまたは風しんの予防接種を受けていない場合は、平成18年3月31日までに受けられることをおすすめします。

問合せ 市保健衛生課（大雄庁舎内） ☎ 3512185
または各地域局福祉保健課

裁判員制度について学んでみませんか

平成16年5月28日に「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」が公布され、平成21年5月

までの間に裁判員制度が開始されることになりました。この制度は、裁判員として選ばれた方が「被告人が有罪か無罪か」「有罪であればどのような刑にするか」を、裁判官と一緒に決める制度です。秋田地方検察庁では、この制度を広く知っていただくため、講師派遣や広報用ビデオの貸し出し、また刑事裁判傍聴会など、さまざまな広報活動を行っています。各種研修等にご利用ください。

問合せ 秋田地方検察庁企画調査課
☎ 018(862)5584

ごみの出し方いま一度ご確認ください

現在、市内のごみ収集は合併前の制度にもとづいて各地域ごとに行っています。市では、平成19年4月から「ごみ袋の手数料制」を取り入れつつ、制度の統一化を図るため準備をすすめています。平成19年3月までは、現在使用中のごみ袋を使用し、ごみを出す際もこれまでと同様にご利用いただけます。また、環境保全センターに直接持ち込む場合も、「東部」「南部」「西部」のエリアごとにある各センターをこれまでどおりご利用ください。

問合せ 市環境課（大雄庁舎内）

入場料

無料
問合せ 湯沢北高校生活科学科 ☎ 0183(73)5168

相談



うつ病家族教室

うつ病に関する思いや悩みを抱え込まず、家族同士で語り合いながら勉強しませんか。参加希望の方はお申し込みください。

日時 12月20日・1月10日・1月31日
午後1時30分から
場所 県雄勝地域振興局福祉環境部（湯沢保健所）
申込先 県雄勝地域振興局福祉環境部企画福祉課
☎ 0183(73)6100

おしゃべりサロンを開設します

人間関係での悩みなど、心の健康に関わる思いを一人で抱え込まず、その場限りの関係で打ち明けあってみませんか。保健師が相談に応じます。

日時 1月から3月までの第2水曜日午後1時30分
場所 平鹿町ゆとり館
問合せ 平鹿町ゆとり館 ☎ 2410007

☎ 3512184

または各地域局市民生活課環境防災担当

油漏れ事故が多発十分ご注意ください

11月以降、市内において家庭用ホームタンクなどからの灯油流出事故が相次いで発生しています。次のことに十分注意し、事故防止につとめましょう。

1. 定期点検の実施
ホームタンクや配管に亀裂や油漏れなどの異常がないか点検しましょう。

2. 給油時の注意
ホームタンクからポリ容器などに給油する際は、その場を離れずに行い、終わった後は、バルブやコックを完全に閉じましょう。

3. 事故発生時の対応

油が流出したら、ただちに布などで回収し、河川や側溝などに流れないよう注意しましょう。万が一、河川や側溝に流れ出る事故を起こした場合、または発見した場合は、市役所、消防署、警察署等へお知らせください。

問合せ 市環境課（大雄庁舎内） ☎ 3512184
または各地域局市民生活課環境防災担当

軽油引取税免税証（農業用）の交付申請を受け付けます

【申請受付日程】

期日	地域	対象地区	時間	場所
1/17 (火)	大森	大森全域	13:00～15:30	大森地域局3階集会所
1/18 (水)	十文字増田	十文字、三重植田、陸合、増田全域	9:30～11:30 13:00～15:00	十文字地域局2階委員会室
1/19 (木)	大雄	田根森、八柏、下吉田、阿気、田村、新町、宮田	9:30～11:30 13:00～15:00	大雄農業センター3階会議室
1/24 (火)	雄物川	沼館、館合、大沢、福地、里見、谷地	9:30～11:30 13:00～15:00	雄物川地域局2階大会議室
1/25 (水)	平鹿	醍醐、下鍋倉、吉田、浅舞、樽見内	9:30～11:30 13:00～15:00	平鹿生涯学習センター（旧平鹿町中央公民館）
1/26 (木)	横手山内	横手全域、山内全域	9:30～11:30	秋田県平鹿地域振興局1階第2会議室

問合せ 県平鹿地域振興局県税課課税班 ☎ 32-0595

【必要な書類】

- (日)免税軽油使用者証（すでに交付を受けている方のみ）
- (月)農業委員会による耕作面積の証明書
- (火)使用機械の所有証明書（契約書、納品書等。新規に申請する方および機械を更新した方のみ）
- (水)免税軽油の引取を証明する書類（納品書、購入証明書等）
- (木)免税軽油の引取および使用状況の報告書（用紙がない場合、会場で記入）
- (金)誓約書（会場で記入）
- (土)秋田県証紙（1件につき400円。新規申請および使用者証の更新の方）
- (祭)印鑑（共同申請の場合は全員の印鑑）



横手市内スキー場オープン情報



スキー場名	営業開始	営業期間	電話番号
天下森スキー場	12月17日（土）午前9時（式典後営業開始）	3月上旬まで	45-9816
大森スキー場	12月17日（土）午後3時（式典後営業開始）	2月下旬まで	26-4210
雄物川スキー場	12月20日（土）午前9時	3月下旬まで	22-2400
山内スキー場	12月20日（火）午前9時	3月中旬まで	53-2240
横手公園スキー場	12月23日（金）午後1時	3月5日まで	33-4101

※降雪状態により、営業期間が変更になる場合があります。

募集

第8回「雪をうたう」
市民俳句大会投句受付中

横手地域で市町村合併前から開催され、年々盛り上がりを見ている市民俳句大会。この大会は、雪に関する創作活動から、横手らしさの再発見やふるさと意識の高揚、さらには利雪や親雪といった「雪との共生」を願って開催するものです。冬の風景を十七音にまとめて、横手ならではの冬に親しんでみませんか。

応募資格 市内在住の方、市出身の方、市内へ通勤・通学している方（未発表の句、1人1句まで）

応募方法

各地域生涯学習センター（公民館）に備え付けの投句用紙でご応募ください
応募期限 1月20日（金）
問合せ 横手中央公民館
 ☎32-13137

小中学校通学区域諮問委員
を公募します

市教育委員会では、少子化や市町村合併など、社会情勢の変化に対応した通学区域の見直し、

学校教育施設の整備をすすめるため、小中学校通学区域諮問委員会を設置します。

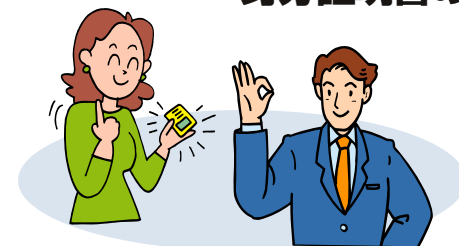
委員は、広く市民の皆さんの意見をいただくため、公募により募集するものとし、各地域から1人ずつ（横手のみ3人）を予定しています。今後の学校教育のあり方にご意見、ご関心のある方の応募をお待ちしています。応募方法など、詳しくはお問い合わせください。

応募期限 12月28日（水）
問合せ 市教育委員会教育総務課（雄物川庁舎内）
 ☎22-2151
 または各地域局地域振興課

自作視聴覚教材交流発表会
作品募集

ビデオ、スライド、パソコンなどを活用した自作の視聴覚教材を募集します。社会教育・学校教育関係者をはじめ、児童・生徒の皆さんなど、どなたでもご応募いただけます。ご応募いただいた作品は県自作視聴覚教材交流発表会へ推薦されます。

応募期限 1月13日（金）
問合せ 横手市視聴覚ライブラリー事務局
 （横手中央公民館内）
 ☎32-13137

税証明書などの交付申請には
身分証明書の提示が必要になります

不正な証明書の取得を防止するため、税証明書などの交付申請の際は、申請者の身分を確認する証明書を提示していただくことになりました。なお、12月末までは、周知期間として従来の方法で本人確認をすることもありますが、平成18年1月1日からは、身分証明書の提示がない場合、税証明書の発行や軽自動車の登録廃車などの手続きは出来ませんので、忘れずにお持ちください。

■身分証明書の提示が必要な場合

- (日)市税の所得証明
- (月)課税証明
- (火)納税証明
- (水)固定資産税関係の証明の請求や閲覧

■身分証明書の提示がいない場合

- (日)軽自動車の車検用納税証明
- (月)法人の営業証明書

■身分証明書として認められるもの

運転免許証、旅券、住民基本台帳カード、健康保険証、納税通知書、年金手帳、船員手帳、海技免状、猟銃・空気銃所持許可証、戦傷病者手帳、無線従事者免許証、身体障害者手帳、療育手帳、官公庁職員身分証明書、写真のある社員証及び学生証、外国人登録証明書、これらと同様の書類

●問合せ 市民税課 ☎32-2510、資産税課 ☎32-2517、納税課 ☎32-2518

いどばた
プラザ

市民主催の催し等をお知らせするコーナーです

NPO法人グローバルよこて 異文化交流のタベ

横手在住の外国出身の方々を招いた座談会。終了後は夕食会を予定。
日時 ●12月17日（土）午後3時（夕食会は5時）
場所 ●横手セントラルホテル
参加費 ●無料（夕食会は3,000円）
問合せ ●NPO法人グローバルよこて ☎32-2229

初心者大歓迎 オカリナを吹いてみよう

期間 ●1月から3月までの計6回
 受講者による成果発表会もあります
場所 ●サンサン横手（横手町）
 （詳細はお問い合わせください）
問合せ ●日高見 ☎090-4918-4674

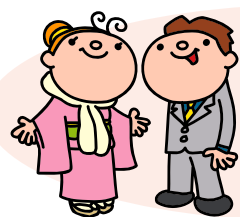
歌の好きな人集まれ！ 思いっきり歌声喫茶

冬の星座、星に祈りを、ほか数曲を予定。
日時 ●1月5日（木）午後7時開演
場所 ●レストラン煉瓦屋（寿町）
参加費 ●1,000円（軽食付き）
問合せ ●レストラン煉瓦屋 ☎33-2811

自然を愛する皆さんの集い

講演「赤ちゃんの力」とジョイントコンサート。
日時 ●1月15日（日）午後1時開演
場所 ●レストラン煉瓦屋（寿町）
入場料 ●800円（軽食付き）
問合せ ●レストラン煉瓦屋 ☎33-2811

市民の皆さんからの「いどばたプラザ」への情報提供をお待ちしています。各種催しの参加者募集などにご活用ください。

新しい年のはじまりに
ご参加ください
横手市民賀詞交歓会

新しい年を迎えた喜びを、市民の皆さんでお祝いする会です。市が誕生してからはじめての開催となる今年、広く全市に呼びかけて開催します。さまざまな分野の皆さんが一堂に会する情報交換の機会としてご活用ください。一般の市民の皆さんもお気軽にご参加いただけます。市内各地域のアトラクションや物産の披露も計画しています。

日時 平成18年1月4日（水）午後4時～5時
場所 平鹿生涯学習センター（旧平鹿町中央公民館）
 ☎24-1340

会費 1,000円（軽食と飲み物を用意しています）
 事前の参加申し込みは不要です。お誘いあわせてご参加ください。各地域局前からバスの送迎も行います。詳しくは次号でお知らせします。

問合せ 市秘書広報課 ☎35-2162
 Eメール: koho@city.yokote.lg.jp

「市報よこて」にご意見募集
平成17年度広報モニター制度はじまります

市では、暮らしに役立つよりよい広報紙のために、皆さんのご意見をうかがう広報モニターを募集しています。アンケートに答えて市報作りにご参加ください。

- 募集期間 平成18年1月10日（火）まで
- 対象となる号 平成18年1月号、2月号、3月号（計6号）
- 応募資格 「市報よこて」の読者で中学生以上の方（住所や勤務先に制限はありません）
- 募集方法 公募のほか地域局や公民館から推薦を受けた方
- 募集人員 30人以内（応募多数の場合は選考いたします）
- 応募方法 電話かメール、ファクスなどでお知らせください。地域局や出張所に備え付けの用紙でも応募できます。

ご応募・問合せ

〒013-8601 横手市役所総務企画部秘書広報課
 ☎35-2162 ファクス33-6061
 Eメール: koho@city.yokote.lg.jp

笑顔がいっぱい



市報よこて
読者プレゼント
Present!

お便りをくださった方の中から抽選で
横手市の特産品をプレゼントします。

※当選の発表は商品の発送をもって
代えさせていただきます

●漬物詰め合わせ(平鹿)



昔から受け継がれた漬物の
技術と婦人の学習研究によ
って培われた知識により、
現代の食生活にマッチした
無公害食品を浅舞の主婦た
ちが心を込め手作りで作り
上げた漬物。おふくろの味
『秋田の田舎漬』詰合せを5
名様に。

【提供】浅舞婦人漬物研究会

●発芽玄米
「JA秋田ふるさとGEN」
(横手)

秋田県産あきたこまち
を100%使用し、白米の
おいしさと玄米の高い
栄養価を兼ね備えた発
芽玄米1箱(500g×4パ
ック入り)を5名様に。



【提供】株式会社横手産業支援センター

POST CARD

013-8601

お手数ですが
50円切手
をお貼ください

横手市前郷字下三枚橋163

横手市役所
秘書広報課 行

フリガナ

◎ご氏名

◎年齢／ 歳 ◎性別／ 男 ・ 女

◎ペンネームまたはイニシャル

※記入がない場合、実名で記載させていただきます。

◎ご住所

電話 () -

◎ご希望のプレゼントを○で囲んでください

1. 漬物セット 2. 発芽玄米「GEN」

PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS PRESENTS

私も隣の山形県から嫁いでき
た一人です。秋田に来ていつも
感じることは、秋田県人は皆心
が温かい。食べ物もお酒もおい

例えば遠くへ
来たもんだ

横手 あきちゃんママさん 37歳

から、免職後の個人を特定でき
る形での氏名の掲載は行わない
こととしています。
市では、こうしたことを繰り返
返さぬよう、いっそうの綱紀粛
正に努めていきますので、ご理
解いただきたいと思います。

横手には厳しい冬があるから
こそ生まれたおいしい物、酒、
そして「温かい心」がたくさん
あります。そのような魅力を広

「読者の声」を
継続してほしい

平鹿 L・Kさん 58歳

「読者の声」ぜひ継続を！
横手市は10万人を超える市とな
りました。市民それぞれが思っ

くPRすることも重要ですが、
市民の皆さんに地元の良さを
見つめ直してもらいたいという
のが私たち広報マンの願いです。
新横手市の活気ある発展のため
には、「例えば遠くへ来たも
んだ」の皆さんの知恵が欠かせま
せん。ぜひ力をお貸しください。

読者の声には、市民の皆さん
からたくさんハガキが届いて
います。誌面上、全部を掲載で
きないのが心苦しい限りです。
寄せられたお便りは、すべて市
長も目を通していきます。このコ
ーナーがより良いまちづくり
に反映されるものになるよう、こ
れからもたくさんのお便りを
寄せください。

ていること、気づくことなど、
たくさんあると思います。みん
なの声が市報を通して行政にも
届くように、みんなで築く横手
市であってほしいと思います。

●このほか、たくさんのご意見
をいただきました。
■長い冬。「運動不足解消！」と、
プラス思考で雪かきを頑張りま
す。(雪やコンコンさん)
■合併で地域の隔たりがなくな
り、特産品も増えたことをうれ
しく思います。(ババちゃん
さん)
■りんご特集の写真が良く、故
郷思いの友人に絵ハガキにし
て送りました。(土手なべさん)
■市報が、日々平凡な生活をし
ている主婦の活力になっていま
す。負けてはいけません！(Y・
Sさん)

りんごづくりへの
誇り

横手 畠山ふみ子さん

市報を通じて横手市の情報を
発信するのが仕事の私たちです
が、取材の中で勉強すること、
気付かされるのがたくさんあ
ります。畠山さんをはじめ、さ
まざまな人、さまざまな角度か
ら市報を読まれていることを忘
れることなく、これからもより
親しみやすい市報づくりに務め
ていきます。

遠く離れ
ふるさとを知る

東京都 ウッチャンさん 55歳

月に一度、市報が届くのを楽

楽しさを見つけ
病と向き合う

横手 柿大好きさん 55歳

糖尿病寸前と診察されました。
病院で食事指導を受け、今とて
も厳しいメニューを毎日食べて
います。最初はつらいものがあ
りましたが、次第に体が軽くな
り、調子が良くなってきました。

若い世代に伝えたい
職人の技

増田 秋南サミットさん 55歳

今の時代、職人の技が次第に
薄れてきています。昔は石の上
にも3年、今はタイムカードを
押して3年。ホワイトカラー、
3Kと若い人は地味な仕事を選
ばなくなりました。頑固、損得
なしにやる職人の仕事。職人が
姿を消す日もそう遠くはないの
では？。今の時代は「食人」技
の若人たちです。

「巧」のコーナーの取材で、
「手に職を持っていれば、自分

不祥事に伴う
実名の公表は？

雄物川 K・Wさん 51歳

いつも思うのですが、市の職
員が飲酒運転等の不祥事を起こ
したのに、名前が公表されない
のはなぜでしょうか。市民の代
表としての市の職についている者
として、きちんと名前を出すべ
きだと思えます。新横手市とな
った今、正すことが大事だと思
います。処分の内容も公表して
ほしいと思います。良いことば
かりの市報ではいけないと思
います。

市では懲戒免職処分を受けた
職員の名を公表することにし
ました。公表は、市民の代表で
ある市議会と公共の報道機関に
対して、処分の説明と共に行い
ます。なお、市報については、
掲載することの公益性を判断し、
個人情報保護と人権擁護の観点



このページは読者の皆
さんから寄せられた声
にふれあう場です。
いろいろな声をお寄せ
ください。

の力でなんでもできる。不況に
もそれほど左右されない」とい
う言葉を耳にします。自分の仕
事、技に自信いっぱいのコメン
トを聞くと、職人へのあこがれ
という気持ちが沸いてきます。
職人技を絶やさず、何とか後世
に伝えたいものです。



五郎包丁鍛冶
遠藤千代司さん(57歳・雄物川)

鋼の包丁へのこだわり

高炉から出したての鋼を叩く音が響く作業場。遠藤千代司は鋼だけを鍛え、包丁を作る技術を持つ、全国でも数少ない鍛冶職人。

一般に包丁は刃先だけに硬い鋼を用い、軟らかい地金で鋼を支えて形作る。研ぎ続け、地金が出ると切れ味を失う。

鋼は硬い材質のため加工が困難。「無理だと言われるとやりたくなる」試行錯誤の末、昭和58年から3年の歳月を費やし、鋼だけの包丁を完成させた。鋼だけで作る包丁は研ぎようで片刃にも両刃にもでき、どんなに研いで小さくなくても使うことができる。耐用年数は40年以上。最近はいん石を使った包丁や錆にくい鋼の包丁の制作にも成功している。

「伝統は更に進化させなければ意味がない。伝統を守りながら現代人に合うようアレンジし進化させていく、これが本当の職人だ」

長年の経験で体に染みついた技術と勘。昔ながらの手打ちの手法で、一本いっぼんの作品に『命』を吹き込んでいる。



昭和23年雄物川町に生まれる。23歳の時、町内の鍛冶屋の娘であるおね子さんと結婚。すぐに義父(甚五郎)に弟子入りし、技を受け継ぐ。全国各地の各種物産展やデパートなどで、鋼だけで作った包丁を世に広めている。



思えば遠く来たもんだ

No.2

十文字地域

高橋愛子さん(55歳)



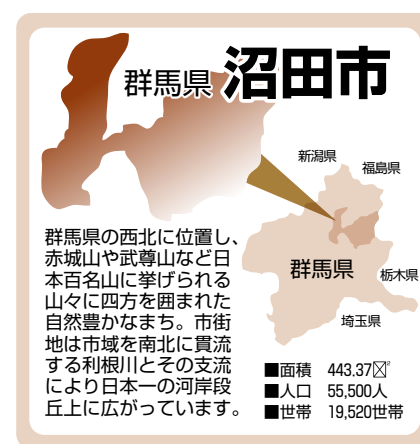
群馬県沼田市出身。父・母・夫・次女・孫3人の8人家族。

高橋さんは、群馬県沼田市の出身。15歳の時から家具問屋を営む叔父の下で働き、その頃、夫の栄一さん(十文字町出身)と知り合い結婚。結婚と同時に十文字町に移り住み、今年で30年目を迎えました。

「初めて十文字に来たのは、大雪の年。家に入るのに5段の雪の階段があり、すごいところに来たなというのが第一印象。遠方に嫁ぐことを心配する人もいましたが、大家族に憧れていた私にとっては全く苦になりませんでした。ただ、困ったのは方言がわからないこと。特にお年寄りの言葉が聞き取れず、

当時は電話にでるのが怖かったものです」

そんな高橋さんが方言を覚えるきっかけとなったのが、清掃用具の訪問販売員になったことでした。「当時、ここでは標準語で話けるとよそ者といった扱いをうけ、玄関の戸を開ける前から訪問を断られる始末。このままではいけないと、それからは多少発音が違っていても、方言を使うように努力しました。おかげで今は、地元の方以上に『秋田県人らしい』と言われるほどです」と笑顔で語ってくれた高橋さん。明るく、積極的な人柄で、仕事に家事にと忙しい毎日を送っています。



読者プレゼントにご協力を

市報よこてでは、市内業者の皆さんへ「読者プレゼント」へのご協賛をお願いしています。

横手市内にあるたくさんの特産品や名産品を市報を通して市民の皆さんに知っていただくと共に、市内全世帯に配布される広報紙を活用した商品の宣伝に、ぜひ市報よこてをご活用ください。

■連絡先 秘書広報課：広報広聴担当(☎35-2162)

編集後記

◆市内の企業へ特集の取材でおじゃまさせていただいた。緊張感に包まれた工場内。私語もなく、一人ひとりが集中して仕事に臨む姿に、背中を押された気がした。「足で記事を書いた。先輩の言葉を思い出しながらの帰り道。」(卓)

◆取材先で耳にするようになった「寒いです」の会話。この一言に「寒いけど頑張ろう」という元気を感ずるのは私だけでしょうか。冬にこそ真価を発揮する横手人。その思いと力強さを市報で伝えられればと思うこの頃です。(孝春)

◆取材に出かけ、また道に迷ってしまった。何回か通ったはずの道なのに、合併に伴い、取材範囲が一気に広がり、行ったことのない場所に行く機会に恵まれたのに、基本的な方向音痴な私。取材の時間には遅れないようにしないと。(克彦)

◆今年も残すところわずかとなり、雪も降り始めました。「気づけば」なとの家族の声に送られながら、仕事場への道をおそるおそるハンドルを握る日々です。今年一年を無事に送れたことに感謝。来年も良い年でありますように。(小百合)

◎お便りをお寄せください。

よこて遺産

THE YOKOTE HERITAGE

【山内地域】

県指定天然記念物

筏の 大杉

山内地域筏地区に鎮座する比叡山神社。その北側の境内にある神木、筏の大杉は秋田杉としては全国有数の巨樹です。

大杉は幹囲 11.8 、樹高 43 。地上約 5.5 のところで、主幹が東西二本の支幹に分岐し、上方に開いて直立しています。支幹基部の周囲は東側が約 7 、西側は約 6.5 もあります。

両支幹とも地上 10 付近から横枝を張

り出していますが、葉は少なく枝も損傷しています。しかし、幹の外部には空洞も無く、大樹の風格に満ち生命感にあふれています。

樹齢（推定）約千年に達した現在では成長も休止状態にあり、樹木の養生と活性化に努めている状態です。筏の大杉は昭和63年、県の天然記念物に指定されました。